

水平社の創立に立ち上がった人々

1 目標

- (1) 差別されても泣き寝入りせず、自ら立ち上がっていった被差別部落の人々のすばらしさを理解する。
- (2) 水平社創立が、被差別部落の人々に、団結するすばらしさ、希望、勇気をあたえたことを知る。

2 学習計画 全2時間

- (1) 水平社の創立 (1時間)
- (2) 水平社創立に込められた思いや願い(1時間)

3 展開

- (1) 水平社の創立

主な学習活動	留意点
<p>1 「解放令」から50年たって、被差別部落の人々のくらしはどうなったのかを考える。</p> <p>資料1を見て、差別が解決されずに維持されていたことを学習する。</p> <p>2 被差別部落の人々は、厳しい差別のなかで、どのように立ち上がっていったのだろう。</p> <p>資料2より、米騒動の起こりと内容を知り、時代背景をつかむ。</p> <p>3 全国水平社創立の様子を知る。</p> <p>全国水平社は、被差別部落の人々の、どんな願いでつくられたのだろう。</p> <p>・「水平社」の水平はどんな意味を持っているのか考える。</p> <p>4 「水平社宣言」から、感じたことを自由に出し、話し合う。</p>	<p>被差別部落の人々が、半失業状態におかれたり、不利な労働条件のもとで働くことを余儀なくされたため、収入は半分以下ということもあったことを気づかせ、差別に対して、被差別部落の人々はどうしたかを考えさせたい。</p> <p>資料1 大正時代の被差別部落の人々の様子 (P30)</p> <p>米騒動や労働運動などを通じて、差別撤廃のためには、被差別部落の人々が自ら団結して行動すべきことを学んだことに気づかせる。</p> <p>資料2 米騒動 (P31)</p> <p>資料3 全国水平社創立大会の宣伝チラシと綱領・水平社宣言 (P32)</p> <p>被差別部落の人々がついに立ち上がった日のことを感じ取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1922(大正11)年3月3日京都岡崎公会堂に全国から3000人結集したといわれている。 <p>注：参加者数に関しては700～3000名まで諸説有り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水平線の水平 ・差がないこと ・平等 ・差別のないこと <p>コラム(P29)</p> <p>資料4 水平社宣言 (P33)</p> <p>宣言文は配布するか、拡大した物を使う。</p>

資料4 「水平社宣言(わかりやすくしたものの)」を読み、被差別部落の人々の思いや願いについて考える。

資料5 ワークシート(P34)

- ・印象に残った言葉やすきなところを書いたり、当時の被差別部落の人々の思いや願いをワークシートに書かせる。
- ・差別され続けても、自分たちは自由・平等を求め続けたこと、あわれみや同情で差別はなくなること、人間を尊敬することで差別をなくそうとしたことなどは触れておきたい。

コラム 「水平」という言葉の由来

「あらゆる尺度というものは人間が作った。そしてその尺度によっていろいろな差が出てくる。絶対に差ができないものは水平である。平等を表現するのは水平ということば以外にはない。」

「人類は平等でなければならない、今の平等は平等ではない。公平であるかどうかということを見るにはいろんな尺度がある。しかし、どんな計器を持ってきてもそれに勝るのが、水の平らかさである、それ以上の尺度はない。」

阪本清一郎談

福田雅子 「証言・全国水平社」 1985 日本放送協会



第三回水平社大会(水平社博物館所蔵)



西光寺

資料1 大正時代の被差別部落の様子

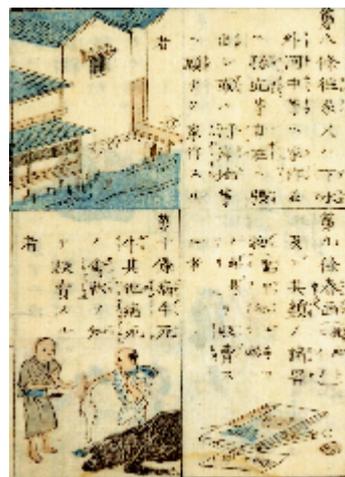
		高知県全体	部落(高知県)	部落(全国)	備考
仕事	農業	50.1%	29.1%	46.5%	数字は戸主の職業を示している。 四捨五入しているため、100%にはならない。
	工業	6.9%	12.0%	7.5%	
	商業	14.2%	7.6%	11.6%	
	漁業	8.0%	19.9%	2.5%	
	公務員	2.9%	0.6%	0.1%	
	その他	18.0%	30.8%	31.9%	
納税額		36.728円	6.482円	22.920円	一人あたりの税金を納めている額。
選挙権保有者(衆議院)		25.57人	2.43人	7.75人	1000人あたりの人数。 選挙することができる人。
教育	就学率	98.95%	95%	93%	学校に来る年齢の子ども総数に対する学校に来ている子どもの割合。
	出席率	94.52%	81%	83%	授業に出ている割合。

部落学校(被差別部落出身者排除の結果、部落の子どもたち対象の学校として部落内で資金を調達して運営された学校)における数字である。

「高知県統計書」 1916(大正5年)・1922(大正11年)・1923(大正14) 高知県庁所蔵
内務省地方局 「大正8年1月調 細民部落概況」 『大江卓関係文書』 国立国会図書館蔵



違式註違(表紙)



違式註違(中身)

(大阪人権博物館所蔵)

参考: 違式註違(いしきかい)

各府県から出された、今であれば軽犯罪法的なものです。混浴・行水・裸足・頼被りなどの行為を罰則を以て禁止し、近代的な生活を浸透させようとしたものです。このことは逆に、それを守らない者に対して、差別は当然とする意識を助長する結果となりました。

米 騒 動

史上はじめて大規模に民衆が立ち上がった米騒動はなぜ起こったのでしょうか。

1918(大正7)年7月、一部の商人が米を買い占めたため、米の値段が急に値上がりしました。そのため、多くの庶民は米が買えなくなり、米屋を打ちこわし、米を持ち出すという行動をおこしました。

米騒動の原因は、日本軍がシベリアに出兵するというこゝで、米が不足することを見込んだ米屋が米の値上がりを期待して買い占めたことにはじまります。

当時の多くの労働者は、安い賃金で長い時間はたらかされ苦しい生活を送っていました。わずか数ヶ月の間に米の値段が2倍以上にあがると、労働者は1日12時間働いても、米1升分の賃金しかもらえない状態になりました。

こんななか、富山県で起こった「米よこせ」の騒動は瞬く間に全国に広がりました。

米騒動は「自らの行動こそ大切だ」という教訓を残しました。

この事件がきっかけになり、あらゆる苦しい生活をしている人々がいっせいに「自らの行動」を起こしました。労働者は労働組合をつくり、小作農民は農民組合をつくるなどの運動を起こしました。また、女性の地位を高めようという運動や、差別からの解放と人間としての自由・平等を求める水平社運動などがいっせいはじまりました。



資料4：水平社宣言（わかりやすく直したもの）

宣 言

全国各地で、齒を食いしばっていきっている被差別部落のみなさん、今こそ手を取り合って進みましょう。

長い間（約300年間）いじめられ差別を受けてきた被差別部落のみなさん。

1871年（明治4年）の解放令から約50年、私たちのためといって、多くの人々によって差別をなくすための運動が行われてきました。

しかし、それらの運動はあまり役に立ちませんでした。

人間は平等であり、尊敬すべきものなのです。

しかし、人をあわれんだり、同情したりする考え方しか持たない人々は、私たちが気のどくな人たちだと思って運動してきたのです。

私たちを救ってあげようという運動は、かえって多くの私たちの仲間をだめにしてしまいました。

だから、今、差別を受けている私たち自らが立ち上がったのです。

人間だれをも尊敬し、大切にすることによって差別のない社会をつくろうという運動を自主的にはじめたのです。

私たちは私たちの手で部落差別をなくしていくのです。

被差別部落のみなさん、私たちの祖先は差別を受けながらも、自由で平等な社会を願い、闘ってきました。

私たちは政府の身勝手な政治によってつくられた身分制度の犠牲者であったが、世の中に欠かすことのできない仕事に携わり、社会を支える存在でもあったのです。

その中でさまざまな差別を受けてきたのです。

しかし、そんな悪夢のような差別の中でも、私たちの祖先の体の中には、誇り高く生き抜こうとする人間のあたたかい血が残っていました。

そして、その血を受けついで私たちは「民衆が世の中の主人公になる時代」にたどりついたのです。

私たちが、被差別部落の人間であることを誇りうる時代がやってきたのです。

私たちは、この世の中が、私たちを差別することのみにくさに気づかない人々や、差別されることのつらさに気づかない人々が多くいる冷たい世の中だということを知っています。

だから私たちは、心から人間の尊さやあたたかさが大切にされる、差別のない世の中を心から願うものなのです。

水平社はこうして生まれました。

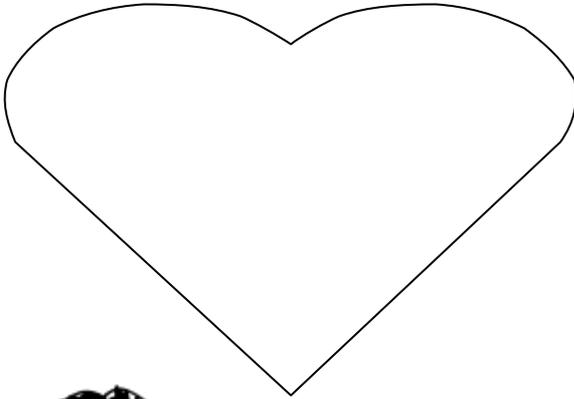
人の世に熱あれ、人間に光あれ

大正11年3月 水平社

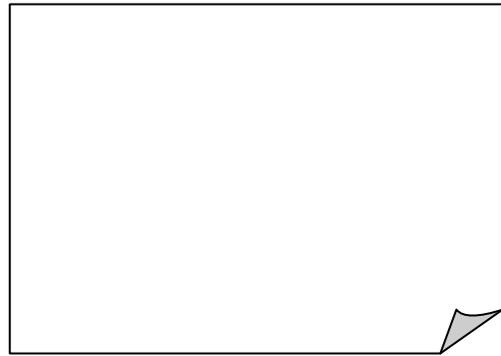
資料5 : ワークシート

ワークシート

好きなところ



理由



水平社宣言文を読んで感じたことを書きましょう。

A large, empty rounded rectangular box with a thin black border, intended for students to write their overall feelings and reflections after reading the text.

(2) 水平社創立に込められた思いや願い

主な学習活動	留意点
<p>1 水平社宣言に込められた願いや思いを発表する。</p> <p>2 「山田少年」の写真を見て、感じたことや思ったことを話し合う。</p> <p>3 「山田少年のさけび」を読んで、少年と人々の思いを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山田少年は、なぜ声をつまらせたのだろう。 ・参加者がすすり泣いたのはなぜだろう。 ・山田少年が、一番訴えたかったのは、なんだろう。 ・会場が割れんばかりの拍手に満ちたときの人々の気持ちは、どんなだろう。 <p>4 水平社運動は、その後どうなっていったかを知り、この学習で感じたことを書く。</p>	<p>前時に書いたワークシートを発表させ、水平社創立の意義を思い起こさせる。</p> <p>資料6 山田孝野次郎の写真(P35) フォトランゲージの手法を使いながら、子どもたちが自由に思いを語る学習を進めながら、「山田少年」について探らせる。</p> <p>資料7 山田少年の叫び(P36)</p> <p>山田少年が声をつまらせたこと、3000人の参加者が、すすり泣いたことに着目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校でのひどい差別、今まで受けてきたさまざまな差別を想起させる。 ・参加者も、自分の生活を振り返る中で、少年と共有するものがあったことを考えさせる。 <p>「大人も子どもも、いっせいに立ち上がって、このなげきの原因を打ち破り、光りかがやく新しい世の中にしてください。」に着目させる。</p> <p>全国の仲間が、差別をなくすために立ち上がった喜びを感じ取らせる。</p> <p>水平社運動が全国に広がっていったことを知り、水平社運動の感想を書く。</p>

資料6：山田孝野次郎の写真



山田少年の写真 水平社博物館蔵

資料7：山田少年の叫び

全国の少年の代表、山田孝野次郎君は14歳のかわいい子でした。ところが、壇上にそのかわいらしい姿をあらわすと、大人の男性にも負けないくらい堂々とした態度で話を始めました。

「わたしは役所の役人さまや学校の先生の演説や話を聞きました。それらの人々は口をそろえて人間の平等が必要だとさげびます。人と人の差別はまちがっていると言います。そして、いかにもそのことを理解しているように、差別的な感情などこれっぽっちもないかのように言われますが、いったん教壇に立った先生のひとみはなんと冷たいものでしょう。」

少年の目にはなみだがにじみました。そして、力で押さえつけられたり、人からさげすまされたり、仲間はずれにされたことについて話をしていると、その小さな胸がいっぱいになったのでしょうか。つい思わず、なみだをあふれさせながらうったえました。場内のあちこちですすり泣く声が聞こえ、壇上のみんなはその場にいたたまれなくなって、事務室に走りこんで手を取り合って泣き出しました。

少年は、最後に大きな声でさげびました。

「今、わたしたちは泣いているときではありません。大人も子どももいっせいに立ち上がって、このなげきの原因を打ち破り、光りかがやく新しい世の中にしてください。」

場内からのわれんばかりの拍手をあびながら、少年は壇をおりました。

全国水平社機関誌「水平」第1巻 1922をもとに作成

トピック：松本治一郎の懐刀といわれた山田孝野次郎

山田少年というと水平社創立大会の際に、参加者を前に演説した年端もいかなない少年というイメージがある。山田少年は、水平社創立大会の時には16歳であったが、体が小さかったことから14歳としていた。彼が小さかったのは「小人症」という病気のためであった。しかしながら、大阪の西浜水平社創立大会で、水平社に批判的な人々がピストルを持って入場してくるとい噂が広がり参加者が動揺し始めた時、山田少年は壇上に駆け上がり、「この私をうって下さい。そんなことをこわがるようでは駄目です。こわい人は、すぐ帰って下さい。」と怒鳴りつける図太さがあった。このような山田少年であったからこそ、松本治一郎の懐刀として全国を飛びまわり、福岡では反軍闘争に取り組んだが、わずか25歳という若さでその短い生涯を終えた。



山田少年の碑 御所市柏原

【参考】部落解放同盟中央本部編 「写真記録 全国水平社」 2002 解放出版社

「水平社の源流」編集委員会 「水平社の源流」 1992 解放出版社